

バイク用ヘルメットとしての特性の有無を判断するヘルメット規格は様々あります。但し、現実には頭を守るのには、現物のヘルメットです。規格をパスするのみであれば、アライの考える本物でなくともパスすることもできます。

アライの考える本物とは



①シェルは頑丈。



②ライナーは柔らかく。



③フォームは衝撃を分散しやすく、すべりやすい、できる限りコンパクトで角のないRの連続の滑らかなフォーム。

最低限、規格には定められていないこれらの事項をクリアすることです。そのヘルメットを作り上げるには、長い経験により培われた、高い技術力が必要なのです。

ヘルメットの衝撃吸収力は、シェルの硬さと内側のライナーの厚みに比例します。広い面積で衝撃を受け止める側頭部に比べ、前頭部は狭い面となるため、ライナーは側頭部に比べ厚くなる傾向にあります。シェルもその分大きくなります。



コンパクトで頑丈なシェルを作るには、衝撃を受ける強さに対し、細かく厚みを調整し、幾重にも材料を積層。上級モデルに関して



スーパーファイバーベルト

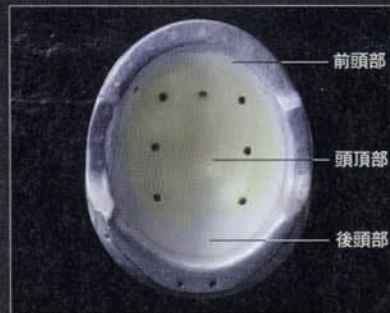


の基本



は、前頭部にF-1用ヘルメット開発時に採用されたスーパーファイバーベルトを用い、剛性を高めています。その後、高温加圧し、樹脂含有率の低い高強度帽体として成型します。部位により細かい厚みが設定されているので、完成された帽体は、シェル製造部門で全数厚み検査し、その後、検査部門で再度全数検査されます。

ライナーにおいては、硬度の異なる発泡体を一体成型することで、理想的な緩衝効果を発揮する多段階発泡ライナーを開発。衝撃の加わる面積に合わせ、ヘルメット上部、中間部、前頭部、後頭部、それぞれに適した硬度の異なる発泡体を使用しています。コストと技術力が必要な一体成型による多段階発泡ライナーは、アライだけの技術です。



フォームに関しても、その形状が滑らかなものであれば、それ自身が力を分散するため、路面に対しても比較的すべりやすい。転倒事例からも、ひっかかりのない球体形状である方が、広い範囲に衝撃を分散し、負荷を軽減することができます。



剛性の高いシェルと、緩衝力に優れたライナーを適宜に組み合わせ、ヘルメット全体の厚みを均一化させ、コンパクトで滑らかなフォームを実現させています。

全てのモデルが、スペシャルヘルメットを作り上げるような、繊細な製法と品質管理により、丁寧にひとつずつ作り上げられています。だから、どんなトップレーサーが使用するヘルメットも、一般ラインに流れているものを、そのまま使用する。これもアライの基本です。